

# 10年後の境港市を考える ワークショップ

## 実施報告書



日時 令和4年12月26日(月)

会場 境港市民交流センター「みなとテラス」

大会議室



## 【事業概要】

日 時：令和4年12月26日（月）13：00～16：00

場 所：境港市民交流センター「みなとテラス」大会議室

出席者：・中学生11名：一中 3名、二中 3名、三中 5名

・高校生 6名：境高校 3名、境港総合技術高校 3名

・大学生 2名：島根大学

・市職員 5名：令和4年度新入職員 計24名（1班4名×6班）

講 師：山本 淳一（境港市教育長）

日 程：開 会（13：00～13：10）

○ あいさつ 境港市長 伊達 憲太郎

地域振興課からの説明（13：10～13：30）

○ 日程・趣旨説明・班ごとの自己紹介

ワークショップ（13：30～16：00）

○ 講師・ファシリテーター 境港市教育長 山本 淳一

① 教育長による話題提供・アイスブレイク

「境港市の航空写真3枚（2020年、1975年、1965年）の比較」

② 班ごとにアイデア出し・話し合い

「境港は、何を使って、どんな都市と交流していけるのだろうか？」

③ 班ごとに考えたアイデアの発表

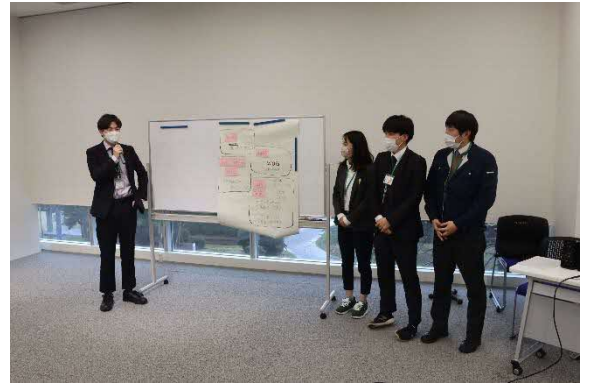
④ 教育長による総括



発表要旨（発表順）：

【⑥グループ（市職員4名）の発表】

- 境港市に生息する絶滅危惧種のアカヒレタビラという魚を通して、保護している他県と交流をする（千葉県・宮城県・茨城県など）。
- 境港市に多くいる高齢者を対象にWOG（ワールド オールドマン グランドゴルフ）を開催する。
- 白ネギ、牛骨ラーメン、日本酒（千代むすび）といった同じ特産品を持っている都市と交流する。
- 市役所のチームは、一人の境港市出身者を除いて、他のメンバーはそれぞれ松江市、兵庫県、福岡県出身なので、その出身地のつながりを使って他県と交流する。
- 土地、空き家の活用について、境港市には耕作放棄地であったり、空き家であったり、他にも市民の山（日南町）、市民の森、竜ヶ山公園など、活用可能な土地が多くある。空き家に企業を誘致して、実験に使ってもらうなど活用を模索する。または、空き家を壊した場合の土地の固定資産税を減免する。



【②グループ（総合高校1名+境高3名）の発表】

- 境港の資源を以下の通り挙げた。（水木しげるロード、水産物、おさかなロード、夢みなとタワー、トライアスロン、みなとテラス、米子空港、江島大橋、サイクリングコース、文化ホール、大漁祭、台場公園、境夢みなとターミナル、マリンスポーツ、航空祭（ブルーインパルス）、海とくらしの史料館、伯州綿、白ネギ）
- 米子鬼太郎空港と境夢みなとターミナルで新しい航路を整備して、諸外国との関係を深める。
- みんながより多く楽しめる新しいイベントを増やす。



【④グループ（一中1名+二中2名+三中1名）の発表】

- 都市との交流について、「生活面」「建造物」「観光」「特産物」「様々な年代との交流」にグループ分けをした。その中で「様々な年代との交流」に重点を置いた。
- 理由は、2025年には経済を回している中心がZ世代になり、2030年には働いている人の約4割が一人暮らしとなり、多くの人々が孤独になるからである。孤独になるとコミュニケーションが取れない。最初の趣旨説明にあったように、インプットとアウトプットができなくなる。
- 様々な年代と交流するために、10年後に東京や大阪など人口の多い都市の関係を持つことによって、1ターンで境港市に来てもらう。都市部の人々も住みやすいまちづくりをする。



### 【①グループ（総合高校2名＋島大生2名）の発表】

- 選んだ資源は、水木しげるロード、水産物、米子鬼太郎空港、農産物。
- 水木しげるロードを何度でも行ける楽しい場所にして、国内外から観光客を呼び込む。
- 水産物では、漁獲量が大幅に減少しているので、対策として養殖漁業で漁獲量を増やす。境港総合技術高校では、実習で養殖だったり、製品を販売したりして地域との交流を深めている。
- 漁師の数が減って若い人がいない。漁師の人数を確保するために漁師体験や釣り体験を通して漁師になりたい人を増やす。
- 米子鬼太郎空港を活用して、海外との交流や物資の運搬を進める。
- 農産物について、弓ヶ浜半島は白ネギの栽培が盛んなので、地元の食材を調理して白ネギ料理を広める。



### 【⑤グループ（一中1名＋二中1名＋三中2名）の発表】

- 資源は、畑と海と水木しげるロードと夢みなとタワーを選んだ。
- 海では、おいしい食べ物がとれるところや海の面積が少ないところと交流ができたり、地域の子もたちと釣り体験をしたりすることで、他の都市との関係が増やせると考えた。
- 畑では、伯州綿をブランド化して有名にしたり、白ネギを中心とした畑づくりをしたりする。
- 水木しげるロードでは、動画作りや祭りにより賑わいを生み出す。
- 夢みなとタワーでは、他の県のタワーと協力して、全国タワー巡りを企画する。
- 魚や伯州綿をブランド化して全国的に広めて有名にして、水木しげるロードや夢みなとタワーで観光客を増やす。



### 【③グループ（一中1名＋三中2名＋市職員1名）の発表】

- 観光資源について、場所では、水木しげるロード、美保基地、みなとテラス、夢みなとタワーを選び、イベントでは、航空祭を選んだ。
- 水木しげるロードでは、外国人観光客が多く日本語がわからない人もいるかもしれないので、中国語、ロシア語など、多言語のポスターやパンフレットを作る。
- 米子鬼太郎空港、境夢みなとターミナルは、他国から境港市に来るための窓口である。いろいろな人がいろいろな国から訪れるため、国際線を増やして世界的に有名にしていくことが課題である。観光と水産業を混ぜて、旅行先の境港市でおいしい魚を食べなが



ら、魚の廃棄物をサプリに再利用できることなどをPRすることで、環境保全と産業振興の両立ができる。

- ・赤ちゃんのおくるみに使われる伯州綿を全国展開する。
- ・境港市でも徐々に出生数も減ってきて子どもの数が少なくなっていることが課題としてあるが、逆に人口が少ないことで、地域の皆さんの顔がしっかり把握できたり、子どもの数が少ないことで生まれた子どもにプレゼントを渡せたり、出産前に全員のお母さんに電話をして、直接面談ができていたりしている。人口が少ないことを境港市の資源として捉える。大学進学などで他県に行く人も多いので、そういった情報を知ることによって戻ってくる人が増えたら良いと考える。
- ・乳幼児健診で絵本を渡す「ブックスタート」や小学生の子どもが赤ちゃんに本の読み聞かせをする「赤ちゃん登校日」が全国に広く周知できれば良い。

#### 【市長コメント】

昨年は「未来ワークショップ」において、将来的に境港市の人口が3万人を切る、高齢化率も高くなるなど、未来のデータを示しながらワークショップを実施しました。

今回は、境港市の地域資源である港、海、農産物、水産物や様々な公共施設の名前が出ました。これは既に境港市にある資源です。今ある資源を最大限活用してまちづくりに資することを皆さん考えていました。

これまでに無い自由で奇抜な発想や意見はありませんでしたが、堅実に現実を見ながら、10年後、20年後を考えていたと思います。

皆さんから出た意見の中で特にしっかり取り組まないといけないと思ったのが、中学生チームの発表にあった「様々な年代との交流」です。全国各地の人と交流して、自分と関わりのある人が境港市に1ターンで来るのは大変いいこと。境港市の英語のレベルは高いので、どんどん海外の人と交流して境港市に来ていただくようなことになればというのが印象に残りました。

今日のことを忘れずに、自分で考えたことは何か、次につながるように頑張ってください。



#### 【教育長総括】

ワークショップで皆さんが付箋に書いた「資源」は、先人が皆さんに残してくれた未来へのプレゼントです。皆さんもこの資源を未来のために今残そうとしています。資源を残すための手法はいろいろありますが、今日は、個人で考えたアイデアをみんなで結びつけあって発表し、課題を見つけ具体策を見出していく手法を行いました。その訓練ができたと考えてくれると嬉しいです。

市議会の中で、弓ヶ浜の海岸にある小さく砕かれた5ミリほどのマイクロプラスチックが混じり込んでいて、その処理についての意見がありました。実は、先人が残したその負の遺産も資源になります。我々はそれを使って、市民が喜ぶ方向に持っていくことができますし、県外の人が境港市を訪れる資源にすることができます。ネガティブなことも資源と捉えるように発想を転換することで、未来が開ける可能性もあります。

境港市の観光資源でいったら、水木しげるロード、これは平成5年にできて、本当のお化けが出る商店街と言われていて、夜になったらシャッター街で誰も来てくれませんでした。今は夜もライトアップされて綺麗になりました。

境港市では観光のまちづくりが進んで、皆さんは当たり前のように境港市がたくさん観光客が訪れる町だと思えるようになりました。私の名刺にも鬼太郎の絵が書いてあります。県外の人に名刺を渡すと「鬼太郎の町の境港ですか」と言われます。昔は「さかえです」と言うと「大阪の堺ですか」と言われて、その後言葉が続きませんでした。水産業も斜陽化して魚も獲れなくなって困っていた頃もありました。水産業と観光業について、昔の人たちが未来を考えて一生懸命に策を打ちました。我々はその歴史の延長線上で生きています。

今日は、具体的にどこかの町と結びつきあって、効果や課題を検証するという課題でしたが、具体的な都市名はあまり出てきませんでした。図書館職員に今日のワークショップの話をしたら、「調布市と図書館交流をしたい。お互いに水木しげるさんが住んでいたところなので、水木しげる関連の所蔵資料を交換し合ったり、展示をしたり、水木さんをきっかけに調布市の皆さんと交流するのはどうだろうか」という意見が出ました。図書館を妖怪だらけにして、一反木綿ののれんをくぐってから、ぬりかべをよけて入らないといけないとか、次々に発想が生まれてきました。

最初は水木さんを通して町と町が繋がったことが、今度は人と人とが行き来するようになる。調布市に行って、調布の皆さんと交流して、人が行き来するようになれば、災害が起こったときには助け合うようなことが自然と市民の中から生まれてくるかもしれません。

これからは、行政だけがまちづくりをする時代ではありません。行政でなければできないこともあります。市民も協力する必要があります。例えば、ごみをどうやったら減らしていけるのか、少しでも市から出るごみを減らすには我々はどんな工夫すればいいのかなど、具体的に市民みんなが動いて考える必要があります。学校給食の残飯を減らすのに、先生に言われたからではなく、どうしたら食べ物に感謝しながら残飯を減らすことができるのか考える。バイキング形式にする、自分の食べる量だけ取るなど、いろいろアイデアを出すことが大切です。

君たちはそれぞれリーダーになる人たちなので、ぜひ発想して欲しいです。思いついたら相談してみればいい。先生に相談し、みんなで知恵を絞って寄せ合って提言して、市に言わないといけないことなら、私や市長に話をしてください。そういうことを繰り返すことが大事です。

私はみんなが真剣に考える姿を見ながら、みんなの最終的な幸せについて考えました。マーティン・セリグマンという人が、well-being（ウェルビーイング）を提唱しています（well-beingは、心身ともに良好な状態にあること、「幸福」とも訳される）。どうしたら「幸せ」を獲得できるのか。私が行う教員や市職員向けの研修会では、市民の幸せ、あなたたちの幸せが大切と話しています。マーティン・セリグマンの考え方に興味があったら、メモしてWikipediaやGoogleで調べたり、面白いなと思ったら本を買って読んだりしてください。興味を持ったらつなげてシェアする。みんなで議論してアウトプットしていく。こういうことが繰り返されると、みんながストレスなく思ったことを言えるようになるので、小さな意見でも発表できる勇気を持ってください。



## 10年後の境港市を考えるワークショップ アンケート集計

番号	設問	ワークショップに参加したことで、前よりそう思うようになった		ワークショップに参加する前から、そう思っていた（あまり変化はない）		ワークショップに参加したけれど、あまり、あるいはまったくそう思わない	
		回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1	境港市が好きだ	17	71%	7	29%	0	0%
2	境港市がくらしやすい場所になるよう、自分にできることで貢献したい。	22	92%	2	8%	0	0%
3	境港市で起きている問題について、もっと知りたい。	19	79%	5	21%	0	0%
4	社会や地域で起きている問題について、家族や友人と もっと話し合ってみたい。	14	58%	9	38%	1	4%
5	私は、自分と同じくらいの年齢の人と比べて、境港市の現在や将来に関する問題について、知識があるほうだ。	8	33%	10	42%	6	25%
6	境港市で起きている問題に私が関わることで、少しでも望ましい方向に現状を変えられるかもしれない。	14	58%	9	38%	1	4%
7	境港市で起きている問題に私が積極的に関われば、市の決定にも影響を及ぼすことができる。	12	50%	9	38%	3	13%
8	今、もしくは大人になったら、境港市で起きている問題を解決するために、関係者と一緒に話し合う場に参加したい。	17	71%	7	29%	0	0%
9	今、もしくは大人になったら、境港市で起きている問題を解決するために、関係者が話し合ったり、協力したりする場を作り、みんなに参加を呼びかけたい。	16	67%	7	29%	1	4%
10	今、もしくは大人になったら、境港市で起きている問題を解決するために、関係者に自分たちの意見を届ける活動に参加したい（例：意見書・署名の提出、SNSを通じた意見発信など）。	15	75%	8	40%	1	5%
11	今、もしくは大人になったら、境港市を良くする活動のリーダーになりたい。	10	50%	6	30%	4	20%
12	私は、今境港市で起きている問題が将来どうなるかや、対策を講じることでどんな影響がありそうかなど、長期的な視点で考えることができる。	11	55%	5	25%	4	20%
13	私は、未来で起きそうな問題に対して、問題が起きてから解決方法を考えるのではなく、その問題が起こらないようにする方法を考えることができる。	11	55%	6	30%	3	15%
14	私は、境港市の望ましい将来を実現するために、実行可能性の高い効果的な戦略を考えつことができる。	8	40%	8	40%	4	20%
15	私は、今の境港市を望ましい社会へと変えていくために、立場や意見が異なるいろいろな人を巻き込んだ戦略を考えつことができる。	7	35%	8	40%	5	25%
16	私は、他の人と一緒に話し合ったり、協力しあったりして、チームとして上手に作業を進めることができる。	11	55%	6	30%	3	15%
17	私は、自分と立場や意見が異なる人であっても、問題の解決に向けて一緒に話し合ったり、協力しあったりすることができる。	13	65%	7	35%	0	0%
18	境港市で起きている様々な問題を解決するためには、個人で行動するよりも、他の人と協力してできることに取り組んだほうが効果的だ。	15	75%	5	25%	0	0%
19	個人で行動するだけでなく、他の人と協力して一緒に問題に取り組まなければ、境港市は危機的な状況になる。	12	60%	7	35%	1	5%
20	他の人と協力して一緒に地域の問題に取り組むことは、私たちの責任だ。	16	80%	4	20%	0	0%

※番号11からアンケート裏面となり、裏面（11～20）について4名未回答。

## 10年後の境港市考えるワークショップ アンケート回答(一部抜粋)

### 1 参加してどういうところに興味を持ちましたか？

・境港市には沢山の資源があり、他の地域にない魅力が沢山あることに気づきました。その中でも市役所の班のゴーストタウンや生き物に関する活用方法があまりない発想だったので興味が湧きました。

・学生たちが予想の何倍も真面目であったこと。自分の考えが担当業務の内容に縛られていることに気づいたこと。

・教育長からお話でもありましたが、課題とされるポイント(人口減少、空家等)も逆手にとってプラスになるというところに興味を持ちました。また、境港の時代の流れというところについて、自分自身はまだまだ知らないことだらけでもっと深く知りたいです。

・海洋科の生徒と話すことで、今まで関わることの少なかった水産業の実態について興味を持った。



### 2 境港市の10年後の未来は、どうなっていると想像しますか？

・もっとオシャレな店が増えてそう。

・今ある、資源を利用して多くの都市と連携をとり、さらなる発展を成し遂げている。

・孤独化が進み、年配の方が増える。

・人口は減っているかもしれないが妖怪の魅力が溢れていて観光客や海外の人たちで溢れている。

・機械化が進み、あまり人が活動しなくなっているように思います。

・今よりもっと国際的な交流ができ、交通の便が良くなっている。

・全体的に見たら今と同じような人口減少、高齢化といった課題が見え、田舎という感じ方になるのかもしれないですが、市民の一人一人にとっては住みやすいと感じる市になっていると考えます。

・今まで先人が残してきたものを残しつつ、これから若い世代が行う新しいことが共存できる地域になっている。

・今よりさらに人口が減って若者も減少しているが、インフラが整い市外や県外との交流が盛んになっている。





### 3 未来で私たちが大切にしなければならないことはどんなことですか？

- ・一人一人が自分の考えをもって「こうしていきたい」などと発言力を持ったらいいと思う。
- ・大学などで県外に行ったとしても境港に帰って境港の良さを SNS などで広めること。  
今の境港はとても過ごしやすく好きなので、今ある状況にアイデアを重ねていくこと。
- ・機械化が進み、自分たちが体を動かすことが減っても、適度な運動などをして健康を保つこと。
- ・過去の事例にとらわれずに、要素や物事の組み合わせを妄想すること。「A という要素と B という要素を組み合わせたら、こうなるのではないか」という組み合わせ方や発想ができるようになれば、要素を指定することで、あとは AI などが予想してくれているのではないか。その予想が政策を考えるもとになる未来もあるかもしれません。
- ・様々な年代との交流や話し合い。
- ・まずは、今の境港や繋がっている都市について知ることが一番だと考えます。将来をつくる若手の身近である学校生活でいうと、職場体験、境考学(境高)といった総合的な学習の時間、給食での鳥取県産メニューといったちよっとの時間でも今住んでいる地元について考える時間があること、それを大切にしていけばいいと考えます。
- ・現代だけでなく、自分よりも下の世代が住みやすい環境を常に考えること。

### 4 今自分にできることって何ですか？

- ・境港や学校の PR 活動や地域の方々との交流をする。
- ・色々な人に助けをもらいながらイベントなどを開く。
- ・境港をより良くしたいという思いをもって、課題をさまざまな視点から見て、改善策を考察すること。
- ・友達やいとこが県外にいたので、境港に来てもらって一緒に観光して、いとこの友達を誘って境港の良さを伝えること。
- ・地域の人に挨拶をしたりして交流を深める。
- ・ボランティア活動とか地域のことに興味を持つこと。
- ・目の前のことを全力で取り組む。
- ・AI が予測、分析できるようにデータを蓄積すること。



### 5 感想や私(山本教育長)に意見・要望があれば、ご記入ください。

・昔みたいに大漁に魚が取れて、トラックいっぱい鱈や鰯が積まれて、交差点を曲がる際に遠心力で魚が落ちて、鳥も猫もあきるくらいの漁獲で、市場や岸壁を歩いているとおじさんに声をかけられ、箱いっぱいの魚を貰うといったそんな昔の境港市を想像すると、やはりどこか懐かしさを感じる。今の大人の方々の思い出があふれる境港市に 10 年、20 年、あるいはその先のさらに先の世代まで、このまちづくりが行われていけばと思いました。

・楽しく境港市のことを考えられたと思います。今後、境港市が発展をしていく上で大切になることの第一歩として、「境港市のことをよく知る」ということだと思います。その第一歩になったと思います。教育のアプローチとして、オーストラリアとのICTによる授業は非常に面白いと思います！早期の実現を願っております。

・この度は素晴らしいワークショップ、ありがとうございました。ワークショップを行う前は、僕は境港市についての知識がある程度あると考えていました。しかし、話を聞いていくうちに、空港の話や港の話など、全く知らないことがたくさん出てきました。なので、これからは境港市を多くの人に知ってもらうために、まずは自分が境港市について知ろうと思いました。楽しかったです！

・今回のワークショップでの自身の反省点は、10年後の境港市を考えることができなかったことです。資源とその活用(効果、交流)に考えが硬直してしまいました。今回の目的が、10年後の境港市を考えることならば、先にどんな10年後が良いかを考え、逆算して、資源の活用を考えればよかったかもしれません。

・自分より若い方の考え、意見が聞けてよかったです。未来について考えるには今をもっと知ることが大切だと思いました。

・普段話すことの少ない属性の人たちの意見を聞いたり話したりでき、とても良い機会になりました。ありがとうございました。

